

press release

国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館 特別展のお知らせ

日ごろよりお世話になりありがとうございます。

湯浅八郎記念館では、新春 1 月 9 日より、以下のとおり展覧会を開催いたします。

ご案内にお力添えをいただけますよう、お願い申し上げます。

特別展「紙の仕事」

Japanese Paper at Work

こうぞ みつまた がんび

楮、三桠、雁皮などの植物繊維を原料とする日本の和紙は、古くから優れた素材として、書画はもとより暮らしの中の様々な場面で幅広く用いられてきました。千年の寿命を持つとされ、今や世界中で文化財修復に欠かせない材料としても注目を集めており、2014 年にはユネスコの無形文化遺産にも登録されています。本展は当館の収蔵資料の中から、和紙を材料に作られた工芸品と関連資料を展示し、和紙が持つ秘めたる力と造形に焦点を当てる展覧会です。

中国で発明された製紙術は、朝鮮半島経由で 1400 年前に日本に伝来しました。その後、改良を重ね、奈良時代には日本独自の流し漉^すきの製法が確立したといわれています。長い繊維を粘液の中で均一に幾層にも絡ませるこの技術により、薄く柔らかいのに破れにくいという和紙の特性が生まれました。軽くて加工もしやすいため、文字や画を書きつけるためだけでなく、障子や灯火具など住まいの道具に用いられ、時には布や革、木などの代用として活躍してきました。着物や下着に仕立てた紙衣や紙布、紙縒^{しやうじ}を容器の形に編み漆で固めた紙長門^{うるし かみながと かきしぶ}、柿渋で貼り合わせ図柄を彫った染型紙^{そめかたがみ}、木型に貼り重ね鮮やかに彩色して立体の玩具にした張子^{はりこ}など、一見したところ紙工品と分からないものもあります。工夫を凝らし技を駆使して生み出される変幻自在な和紙の姿と、その意匠を存分にお楽しみいただきたいと思います。

展覧会名：特別展「紙の仕事」

Japanese Paper at Work

会場：湯浅八郎記念館 2 階 特別展示室

会期：2018 年 1 月 9 日（火）～3 月 9 日（金）

開館時間：火～金曜日 10：00～17：00／土曜日 10：00～16：30

休館日：日曜、月曜、祝日、2 月 2 日（金）、2 月 3 日（土）、3 月 3 日（土）

入館料：無料

展示資料：約 110 点

はおり かみしも きやはん かっぱ じんがさ ふとんじ まいわい
染織（羽織、袴、脚絆、合羽、陣笠、下着、仕事着、蒲団地、万祝など）

漆工（紙長門、針箱、紙入、枕、火薬入れなど）
 木工（行灯、手燭、雪洞、衝立、虫籠）
 紙（染型紙、浮世絵、型染絵、水引、扇など）
 郷土玩具（張子、凧、姉様）

交通：JR 中央線三鷹駅および武蔵境駅より小田急バス「国際基督教大学行」終点下車
 または武蔵境駅南口よりタクシー10分

関連イベント：第103回公開講座「和紙の魅力」

講師 名児耶明氏（五島美術館副館長）
 日時 2018年2月10日（土）14:00～15:30
 会場 湯浅八郎記念館エントランスホール
 聴講無料・予約制

お問い合わせ等は以下までお願いいたします。

国際基督教大学博物館 湯浅八郎記念館（担当 具嶋恵 ぐしまめぐみ）
 〒181-8585 東京都三鷹市大沢 3-10-2
 TEL:0422-33-3340 FAX:0422-33-3485 E-mail:gmegumi@icu.ac.jp

なお、**12月23日から大学の一斉休暇期間**となりますので、ご連絡は**12月22日まで、または1月9日以降**にお願いいたします。



みはるはりこ
 ●三春張子 腰高虎



いせかたがみ ななめこうし
 ●伊勢型紙 斜格子に十字文



ありあけあんどん
 ●有明行灯 2種

画像データ（カラー）をご入用の場合は、ご遠慮なくお申し付けください。